

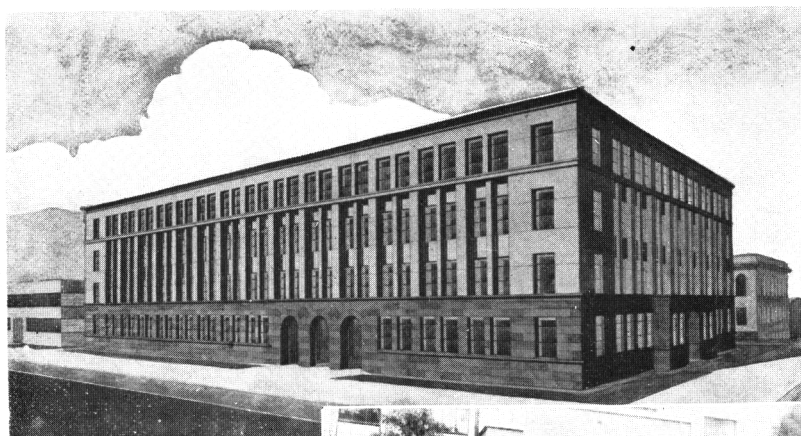
早稻田應用化學會報第二十六號

別 刷

~~~~~

### 目 次

- (1) 例 會 記 事
- (2) 教 室 消 息
- (3) 理 工 學 部 展 覽 會 の 記
- (4) 會 員 消 息
- (5) 住 所 及 勤 務 先 變 更
- (6) 夏 期 見 學 旅 行 記
- (7) 平 塚 海 軍 火 藥 廠 見 學 記



上圖は竣工後の我が應用化學科教室の偉觀であります。第1期工事として正面玄関より左方が着工され、これが應用化學教室になります。本年九月には全部竣工落成の豫定であります。正面玄関より右側が採鑛冶金學科教室として將來着工される豫定です。中圖は去る10月15日莊嚴なる地鎮祭の光景であります。下圖は先般小林先生に御贈り申上げた横山大觀畫伯の筆になる山水、畫題「朝嶺」であります。

京都嵐山にて



雲仙地獄めぐり

王子製紙八  
代工場にて



雲仙にて  
秋山先生



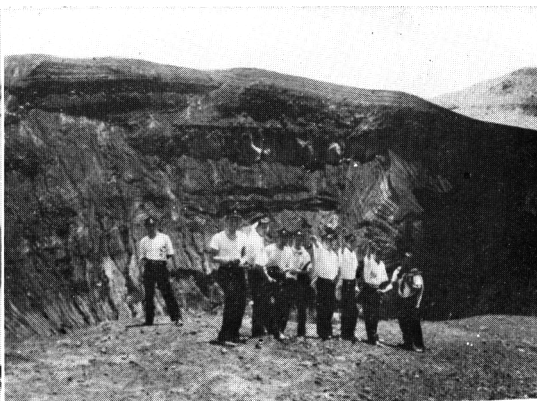
球摩川下り



阿蘇にて



有明海横断の船上にて秋山元生



阿蘇山にて



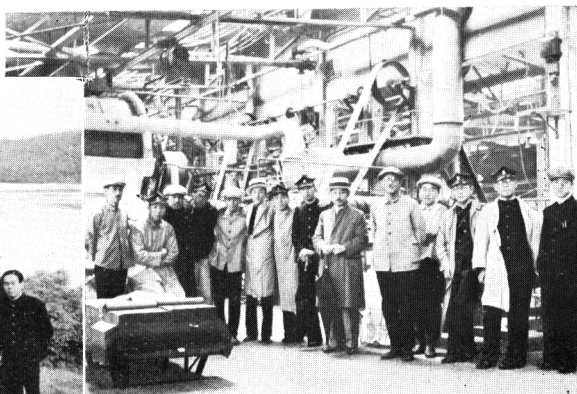
別府地獄めぐり



札幌グランドホテルに於ける観迎會



阿寒國立公園（阿寒湖の風景）



王子製紙釧路工場



## (1) 例 會

昭和 10 年 6 月 6 日 (木) 午後六時より丸の内レインボーグレルに於て第 37 回例會を開催す 出席者 39 名

講演 「混合溶劑に就て」 山口榮一氏

尙當日山口先主は風邪の爲缺席され宇野先生が代つて原稿の朗讀をなす、その後小林先生最近コロイド壤土の産地栃木縣鹿沼地方を視察されたのでその大要を先生から承つて最近にない非常に愉快なる一夜を送ることが出来た。

7 月 8 日 (月) 午後六時より丸の内レインボーグレルに於て第 38 回例會を開催す。出席者 44 名

講演 「滿鮮地方旅行談」 肝付 兼英氏

肝付氏が先般貴族議員の一人として滿鮮地方を視察され諸所御見聞された土産話である。先づ話しは各地に於ける宴會の御馳走ぞめより始まり朝鮮に於ける南滿北羊政策乃至羅南、清津地方の工業地帯の將來の問題滿洲國に入つては建設の途上にある各地の活況或は將來性をも論じ滔々 3 時間に亘つた。又非常に有益な會であつた。

10 月 4 日 (金) 午後六時より丸の内レインボーグレルに於て第 39 回例會を開催す。出席者 47 名

講演 「北海道地方旅行談」 小栗 捨藏氏

今年夏休に入るや第三學年に於ては例年の見學に出掛た一つは北海道へ他は關西九州へ。この北海道地方の引率者として小栗先生が行かれ今夜その御土産話を御願致した。

北海道の工場見學に加へて特有の風光をアルバムをそへて説明して下さつた。本年始めて北海道地方の見學を試みた所非常なる愉快な有意義な見學したことを拜聴出来感謝に堪へない。

## (2) 教室 便 り

應用化學科教室の改築。待望久しかつた我應用化學科教室の改築も愈々今秋より着手されて居ります。

場所は現在の應用化學教室の隣 (第二學院前) であります。去る 10 月 15 日地鎮祭があり教室諸先生も參列致しました。第二期工事として採鑛冶金科の改築を行ひ、之を合せて寫眞の様な一つの大きい建物となります。地階共五階、應用化學科の分は延坪約 1000 坪、來年夏には堂々たる姿を現はすことでありませう。斯くなる迄には小林先生の一方ならぬ御奔走に據るものと一同深く感謝

致して居ります。

秋山先生嚴父の御逝去。秋山先生の嚴父には 9 月 17 日御永眠になりました。19 日告別式に際しては教室諸先生並に學生多數焼香哀悼の意を表しました。

## (3) 理工學部展覽會の記

お天氣で、紺碧の空で、收穫の秋の太陽で母校創立五十周年を祝う地上の子供達をいやが上にもよろこばず日だつた。あの頃はまだ防空演習などと云うものがあまりはやらぬ頃だつたので、まったく物珍らしく煙幕の實驗を見學したものだつた。その日は僕が先輩の案内で應用化學科の建物にはじめて這入つた記念すべき日だつた。煙幕に群がる人々をながめながら『世の人々はこれだけ吾々の學科に注目してゐるんだ』『今の實驗室は木造で展覽會をやる事が出来ぬのは残念だ』『だがいまにきつと最新の設備、ほこる建物が出来てその時は早稲田應用化學科の存在を大いに明らかにすることが出来るんだ』などと云ふ先輩の希望にみちた力強いことばを大いに感激してきいたものだつた。つい昨日の事様のな氣がするが、もう今度は僕たちの手で展覽會をやらねばならぬ様になつてしまつた。そして僕等のなつかしい實驗室のとなりには新らしき應用化學科の建物が吾等の最も敬愛する小林先生をはじめ諸先生、諸先輩のおかげに依て日夜着々その工事がすすめられてゐる。只この建物が今度の大會にまにあはなかつたのは残念だつたが、僕等は最善をつくして大會にのぞんだ。

展覽會はなくとも川崎、西片、伊藤、中村等諸君は中々いそがしかつた。大會の重要なプログラムの一つを成した煙幕の實驗のためには數人の人々はほとんど夜をてつして奔走した、かくして十月十九日は來た、九時煙幕係、接待係、各勢揃ひして持場についた。救急班、遺失物係、などと云うえんの下の力もちの役を應化の諸君がかつて出た。中々いそがしい朝だつた、十時煙幕係は部處につき、サイレンの音が秋空をやぶつてなりひびいた、一般の人の化學智識普及のためメガホンをもつてかけまわる人、群衆を制する人、これを取りまく數百の人々、煙幕はもうもうとたちこめてこれらの人々をまっ白な何もない世界につれてゐつてしまつた、前總長の銅像がかくれた、校舎も、校門も、木も、路も、人々はか

ん聲を上げた、子供はバンザイをさげんだ、かくして實驗をおわつた、この實驗は十九日に二度、二十日に三度校内廣場で行まれた、そして回をかさねるたびに上手になつていつた。二十日の最後のものなど實に迫力ある物だつた、廣場はことごとく煙幕をみる人でうめつくされ應化の連中なかなか肩身がひろかつた。この實演を最後のヤマとして十九二十日と實にすばらしい好天氣にめぐまれた展覽會は終りをつけやうとした。くれやすい秋の釣瓶落しの西の方をそめる頃會場にはもう人影がたへて、其處此處に裝飾をこわす鎗の音がさびしくなる頃、應化はもう整頓を終つて茶話會の苦心談に花がさいた、その日その時、早明戦を得、秋の王座をしめた早稻田を祝福する勝利の歌が、神宮球場におこり、わがむねにとび、大空をかけつて、銀座にとび、新宿にとび僕等を取りまくもののすべて歡喜の埒塙と化する頃だつた、展覽會を無事に終つた僕等も又勝利の氣やすさで家路についた。

#### (4) 會 員 消 息

##### 九 應 會 例 會

平塚海軍火藥廠から御膝下の海軍省艦政本部第一部に榮轉された近藤次郎君の爲に三福の二階で互にすきな献立で會食をした。已は何を食ふ、汝はかに(蟹に非ず)を喰ふといふ譯で他人の喰べてゐるのが美味さうなら箸を出すといふ工合であつた。永井、山澤、竹内、籠宮、山口が出席した。近藤君からの寄附があつたので改めて謝意を表す。歸途ムーランルージュに寄つて一幕覗いた。猶高崎、河原兩君は已むを得ず缺席した旨改めて通知があつた。

以上8名の他柏木、兒玉、清山、城口、上田、金城君は6ヶ月以内の動靜が少しはわかつてゐるが残り6名の石田、久賀、阿部、水野、關、千代の6君も夫々丈夫で活動してゐられる事であらう。近狀としては山澤君が千住より丸の内の本社に多くゐられる事になつた事が記すべき事の一つである。(山口記)

##### 青鈴會 (第2回卒業生)

「ヤマ」、「ヤア、暫く……其後どうです?…」A君とY君が晩秋の慌しい黄昏の銀座を背景に久闊の邂逅、薄墨色に暈されたビルディングの前にはネオンの灯が入り、服部の大時計は正五時を指して居ると云つた狀景。雑踏と騒音を後に、とある横町の喫茶寮

に落付く、「どうも子供がよわくて、會社が忙しくて…」と云ふ様な個人的内證話から級友の噂話に落ちる「近頃誰かに合ふかい」「いや一向、尤も電話で聲だけは聞く事もあるが」「東京にも少くなつたね」「さう、丁度今10人だ、其内佐藤君や中澤君なんか殆んど會に出て來ないし、會をやつても集る顔觸れは同じだし、少しスランプだね、誰れか上京して來るといゝんだが」「皆んな夫々收つて居るんだらう、尤も僕なんか生きるのに追はれ、外に餘裕がないと云つた狀態さ・時に八百枝君や白須君の消息は?」「八百枝君は奉天の從兄の下に何かして居る話だし白須君も南鮮の義兄の下で一緒に活動して居る筈だ」「其他地方の諸君は?」「僕の方に這入つたニュースでは皆別に大した變化はない様だ。水野君、阪田君、何れも多忙で元氣の通知があつた。又在京の諸氏にも大分會はないが、皆變り無く御奉公と云つた所だ。」「まあコウやつて生きて居る内に頭が禿げて死ぬ所だらう。」「今からそんな事を云つて居ては駄目だ。人生は對數曲線だ。楡の下力持ち時代が段々永くはなるが登り初めれば加速度的だ。早く専務になつて後輩を大いに引つぱつて呉れ。そうすれば皆して君を持ち上げて、ひとりでに偉らくなるよ……」と云ふ様な所で蓄音機の伴奏が這入り終しまい。(11.6.山本速記)

##### ル ツ ボ 會

春以來會をしてゐないので特に書く程のこともないが高橋、國崎兩君の轉勤についてお知らせをして置きたい。

高橋君は十月下旬大阪支店の方へ轉任になつた。當方で話を聞いてから餘り急だつたので送別會をする時がなく失禮してしまつた。又社用で上京の機會もあることと思はれるのでその時こそはと期待してゐる御上京の折は御一報を乞ふ。

國崎君は上京後石鹼工場に居たが九月初めそこを辭して並木製作所(パイロット萬年筆)に勤めることになつた由。佳所を知らせて置いて下さい。

(宇野記)

##### 第 年 ク ラ ス 消 息

小林先生、山ノ内先生御指導の製造實驗は4,5,6月と大車論で進め相當の進度と成果を修めて7月に入り1,2,3日と輕井澤の夏季大學にて野外教練を實施した。7月10日に大體實驗を終了して夏期休暇

を迎へた。本學年も例年の如く休暇を利用して工場見學を實施した、本年は新しい試として二班に分れ一班は小栗先生御引率の下に北海道地方へ他班は秋山先生御引率の下に關西、九州地方へ各約二週間の日程にして無事見學旅行を終へた、二班共に各地に於て非常に盛大なる先輩諸氏の歓迎を受けて今更乍ら早稲田に學籍を有する事を力強く感じたのであつた。(見學旅行に關する詳細は別記の記事にて御覽下さい。)思へば小學校時代から幾度か廻り來つた夏休みであるが此楽しい夏休も今年限りかと思ふと毎年長いと感じた2ヶ月も夢の如くに過ぎ去つて愈最後の努力をなすべき卒業論文實驗に取掛つた次に諸君の卒業論文實驗を掲げてみる。

小林先生、山本先生、石川先生御指導のもの。

本間 一雄君。微粒子現像に就て。

川崎 平藏君。大豆の熱分解に就て。

山田 一夫君。コロイド壤土の物理化學的性質。

山本 一郎君。天然ガスより液狀炭化水素の合成

町田欣二郎君。活性化廢液より無水鹽化アルミニウムの製造。

廣瀬 鮮一君。無水鹽化アルミニウムに依る石油の重合。

小栗先生御指導のもの。

豊田 善雄君。滿洲産紅松に關する纖維素化學的研究。

武井 宗男君。竹材中のリグニンの研究

山口 恒太君。不活性ガス中に於ける纖維素の光に依る變化に關する研究。

舟橋 六助君。斑芝綿に關する研究。

比良野拓夫君。蒸氣處理の纖維素に與ふる影響に就て。

富井先生御指導のもの。

呂駒 九君。透電恒數の測定及其應用に就て。

吉村 敏夫君。有機溶液の電解。

内海 碩夫君。迴轉磁場による觸媒作用の促進。

武富先生御指導のもの。

田中 良雅君。吸着及誘出による酵母インヅェルターゼの精製。

谷岡源之助君。酵母よりインヅェルターゼの分離法。

久我 克己君。カゼインの製法に關する研究。

山ノ内先生御指導のもの。

岡久 隆雄君。ヒトロンプラウ R の合成。

浮舟 嘉彦君。アンスラキノンの透導體について

芦野 泉管。ポリメシキノシアニン色素の合成及其光學的性質に就いて。

鎮目 達雄君。酸性白土に依るビネーンの異性化。

山口先生御指導のもの。

米津 新松君。防水劑にて(主としてセルローズエステル)

高木 智雄君。硬化油の研究(蠟酸ニツケル系觸媒の製造及性質)

松島 喬君。不乾性油より乾性油の製造(ハロゲン化油脂のハロゲン脱却)

藤崎 四郎君。硫酸化油に就て、魚油の硫酸化及製品の性質。

平山 康吉君。亞麻仁油のエーテル不溶性臭化グリセリドに就て、有機ハロゲン化物のハロゲン分析。

宇野先生御指導のもの。

出雲 敏男君。ヴァナデン金屬鹽の研究

秋山先生御指導のもの。

磯野 好治君。ポルトランドセメントの化學成分と施行時に於ける發熱量との關係に就て。

桑原幸二郎君。高アルミナセメントの研究。

以上の如くであつて皆既に豫備實驗も終へて本格的に研究に没頭してゐる。

若人の血を躍らす早慶戦にも名残を惜みつゝそろそろ就職に奔走しなければならぬ。去年今年と好況の波上にある工業界に、そして化學工業勃興の氣運に恵まれたる時吾々は敢然母校の暖い巢を飛び去つて此未知の世界に船出するのである。今吾々の胸中は未知の世界に對する大なる希望と燃ゆる如き野心との中に永年住み馴れた母校と後數ヶ月を経ずして別ればならぬ一抹の淋しさを感じるのである。(昭和 10.11.5 出雲記)

## 第 2 學 年

我々の性質の一端を皆様方に知つて頂くために今回より共同實驗者により紹介致します。

伊藤周藏氏 特徴の多分にある「面白い」人柄です。氏は又理論家です。實驗中氏の所に質問に來る人があると氏一派の高遠な説明を聞いて「そんな事があるのか」と狐につまされたやうな顔をして引き退るのが普通である。諸の上手なのは既に周知の事である。一年の時は級中で屈指の居眠の名人でしたが二年になつて以來未だ居眠りしてゐるのを見た事

がない。一見ルーズのやうで急所々々をしめくつて行く點がクラス委員として最適の理由と思ふ。

石川廣次君 温厚な紳士を偲ばせる人柄である。氏は又凡ゆる方面に於て行くとして可らざるは無き常識家である。一見無口の如く見える氏も一度腰を据へ語らんか限り無き常識が氏の言よりうかがひ得るは實に頼母しい限りである、所謂『やらせればなんでもやる人間だ』スポーツ良し飲酒良し酔へば唄ひ唄へば寝る。實に典型的の否理想的の飲酒家と稱すべきか。好漢惜むらくは字が穢い。現在見學委員として活躍中である。

今村竹利君 應化2年のスマートボーイを以て自他共に許す一人で最近バルダックスを購入速寫ケースを擔ぎ廻つて益々光彩を添へたです、目下モルモット物色中。映畫音樂會等にはよく出張します。銀座は勿論、實驗は稀にスランプに陥るが大體熱心但し時間厳守で正一時には始めるが四時になると止めたがります。特筆大書すべきは氏の本職は體操屋さんで早大體操部否日本體操界のオモチン(重鎮)でゐられます。水泳も相當出来る由ですテニス野球となると稍ガラス屋へサービス部長たる傾向があります。

石津俊夫君。僕のジャストハーフ、自動車にかけては早大の權威試驗管持つよりハンドルの方が上手らしい。自動車に只乗りしたい人は銀座に立つて石津運轉手の圓タクを待つ事をお薦する。寫眞も相當なものの家に歸つてから勉強はしなくても引伸は熱心にやつてゐる。又自宅の三階に立つて傳書鳩の訓練をしながら道行く人々を一心に見物する風流人でもある。實驗室では相當熱心であるが僕と同様に時間厳守主義。時に何かの加減で四時半迄やる事もある。

池田泰三君 君はおしやれでスマートな所謂『相當な』と思はせます。然し之は君の物理的性質で化學的性質に至つては生眞面目な化學者で酒煙草も嗜なまず、凡そ遊びから遠ざかつた人間です。但しいつも鳴られる麻雀と撞球はやるらしいです。語學的才能は多分に持つて居る英語なら相當なもの。獨逸語は未だ勉強してないさうですが他日必ず之もペラペラ讀めるやうになるでしょう。又氣の弱い君子で決して危い所へは近付きません。

西片兵衛君 氏は性磊落豪放大に酒を好み酔へば談論風發終に寝るに至る。寝れば鼾聲轟々、日輪の中央高く昇るも知らず。又理論家にして精密を極

め往々人の虚を衝く。氏のクラス委員として適當なる所以を以も此所に存すると覺ゆる。氏の得意とするのは室内遊戲にして將棋に至つては應化名人を自稱するも其の眞實性たる萬人の認めざる所なり。なほ獨逸語に堪能にして應化獨逸語字引を自稱す。

徳本雄吉君 人と敢て争ふ事なき人格者。ノートは實に綺麗です。實驗は好きでも嫌ひでもないといふ所、酒は殆んどのまず最も得意とする所のものは寝る事で君の寝る事は我級の一方の人間たるに充分郷里松山に歸るに横濱から京都まで起きて居た事がないといふ程です。しかし近頃は8時10分より必ず早く来て居ます。室内遊戲は我級の No.1. 碁撞球は大家の風?を具へ將棋麻雀も亦相當なものです。野球テニスも心得て居りリーグは大抵に行きます

大西陸雄君 實驗を眞に楽しむとは君の事だ。責任感強くでたらめなデータを信ぜず、所信を貫く所に君の價值がある隣人だから賞めるのではないけれど又應用のきく所クラス第一に推す、君は全身至る所エネルギーを充滿し實驗にその捌口を求め一晚の休養に無限のエネルギーを貯へ登校する。しかし所謂馬鹿眞面目に類するのではなく融通もきけば社會常識も發達してゐる。社會は君の様な人を要求し待つて居るだらう。

大森作三君小川吉一君、若原、鶉飼のバツナリコンビが勝れてゐる點に就ては六大學隨一であらう我等のコンビも亦之に勝るとも劣ら事はクラス周知の事である。

「小川そろそろ飯にするか」「あゝ此の邊で止めとけ」時に午前十一時半なり。

「あと五分だね」「それ時間だ」時に四時卅秒途端に二人の腕にはノートが抱へられ頭には帽子が乗つて居る。

然るに第二學期の電氣化學實驗には此の名バツナリーは自ら進んで難關中の難關「フェロシリゴンの製造」を引受け目下左官屋、石工、土方になつて電氣爐の組み立てにいそしみクラスの者を驚かしてゐる。

大久保美夫君 『大久保君』『ハイ』『一步前』太陽は中天で笑つてゐる。N先生はいかめしい顔で訓示を始めた。時は今を去る5年前學院のグラウンドだった。その日早慶戦のため午後の體操を休みにしようとしてクラスのため一肌ぬいだ代表者彼はクラスを代表してお説教をくつた。彼は僕の共同實驗者になつた。N先生も『大久保はクラス第一の人間だよ』



などといはれる様になつた。僕は彼と勉強するのが好きだ。彼とパートナーになつてから実験の成績はグンと昇つた筈だ。又彼と遊ぶのが好きだ。何かつまらん事でくさつた時など彼と上野のお山でも散歩するとなほる位だ。彼は僕の兄貴分だ。今に彼が大會社の社長になると僕を副社長にして呉れるさうだ。

小倉達雄君 我がパートナー 將來の一大化學者を  
目指して勉強される君の姿は實に頼もしい。いつも僕は  
良きパートナーを感謝してゐる。君が座右には常にうず高く本が積まれて居る。哲學の本も軟き本もある。勿論化學の本の有る事は言ふ迄もない。秋の夜長をネオンを戀ふる事なく君が本をひもどく姿こそ世界に雄飛せんとする君にはふさはしき有様だ。唯々君に希ふ事は氣を長く持つといふ事だ。氣を長く持ちうまざる奮闘こそ君が目標に近づく一大要素だ。

### 第一學年近況報告

前期試験も無事終了し新學期を迎へ、一同皆だれることなく張切つて居ります。本科 27 名工業經營分科 5 名の中岡見君が病氣缺席だけで、あとは皆元氣で居ります。待望の理工科大會は校舎の都合上纔に煙幕と催涙彈でお茶を濁した程度なので聊か物足りない氣持です。然し來年の新校舎建設の時にはと今から腕を撫して居る氣の早い者も居ります。

今學期から 鎌田先生の光化學、牧先生の染色並色素に関する御講義、張先生の石炭乾溜工業化學等が始まりましたので、今迄一般的のこしかやらなかつた僕は少しえらくなつた様な氣持が——氣持だけですが——して居ります。春先の候とは異つて教室で居睡りをする不心得者も居らず皆せつせとペンを動し、一語も聞きもらすまいと耳を聳てて居ります。

實驗の方は宇野先生の化學分析が終つて秋山先生の工化第一部の實驗が始まりました。粘土、セメント、水、粗製鹽、工業用硫酸などの分析をやることになつて居ります。『實驗方法は自分で調べること参考にする本は成可く洋書を用ふること、レポートは洋語で書くこと』と云つた御達しなので、今迄宇野先生の庖い所に手の届く様な御講義に慣れて來た僕は大に間誤つて居りましたがそれも日ならずして様子が解り、又學校の内部も一學期間に大部勝手が解つて來ましたので、同じ月謝で同じ實驗費を拂うなら少しでも餘計やつた方がとくだ、と云ふの

で暮れやすい夕方石川先生に實驗室から追出される熱心者も居る始末です。

御承知の様に應用化學の建物は大部分あちらこちらが傷んで居ります。僕達の實驗室の排水管も時々反逆を起して床上に時ならぬ洪水を生じます。先日も山口先生が上つて居らつしつて床の上に水を零しては困ると云はれるので事の次第を説明申上げました。口善惡ない悪童の言によると クロムミクスチャーが山口先生の頭の上に落ちたと云ふのです。

それにつけても新校舎建築が早く完成すると良いと思ひます。素人考ではもう少し手取早く出來さうなものだと思ひながら一同遅々たる牛の歩みを恨んで居ります。

以上甚だ取とめのないことながら近況報告にまで  
10. 31. (藤田記)

吾々が學院を終り、大學に入つてからもう七ヶ月一半年にもなります。大學生活の六分の一は既に終つてしまひました。今日此頃ではもう一ぱしの大學生、否化學者氣取で實驗をやつて居ります。前期の様にへばつたりなんぞはせず、皆ソウトウなものであります。大學生活六分の一の總決算は十月のあの試験無機をもつて華々しく幕は切つて落され、六日の後には天高く學生肥ゆる新秋を一曇天、雨降りばかりつゞきましたが、氣持の上で兎に角曲りなりにも迎へる事が出來ました。休みといふ奴はうまい御菓子みたいな工合でして、すぐに無くなり、いよいよ第二の課程に入りました。實驗の方も宇野先生、石川先生に御別れして、秋山先生に御指導を仰ぐ事となりました。自分自身で参考書を検べるので吾々一寸間誤付いた形でありました。工化第一部といふ奴です。どうかコウカ(工化)本をさがしてきて取りかゝると、試薬試薬、又試薬といつたわけで、十二月までにやつと出來さうな形勢であります。

次に一學年の方のスポーツの方はといふと、前に春日井氏が御書きになつた様に、入る早々二學年の御歴々に野球で歓迎せられスポーツの洗禮を受けた位で、なかなか盛んであります。中に端艇に至つては、理工科大會に於て一年生より編出したるクルーは強豪建築科、老練機械科と競漕し、力漕又力漕、敵を引き離す事正に三艇身餘の大差により堂々第一等を勝ち得ました。と申し上げますと如何にも凄ござうですが之は與太レースの話であります。「來年は」と大いに自信をつけて居ります。



野球の方は云ふに及ばず、投手植田君遊撃熊澤君齋藤君、小野君皆々健在で「天下の敵をこばまざる」形であります。唯早大に其の人と歌はれた名レフト岡見君が不幸腹膜炎の病魔のため今日休學をせられてゐる事は大いに痛手であります。之によりやつと力が他のチームと平均した位です。

蹴球の方もそろそろシーズンです。我々の中でも今週の水曜日より練習を始める予定であります。之は將來益々盛んになる見込がありさうです。

その他登山、ハイキングも盛んで先頃の休みを利用して相當皆歩いた様です。中にロッククライミングならぬ「這來んぐ」をやつた者もあります。旅行に關する方は相當盛んで、今秋も何處に近い低山にクラス會兼用といった形又はお互ひに實驗以外、教室以外の懇親會をやらうといふ計畫も漸く昨今具體化した有様であります。又旅行に伴つた寫眞の方も盛んで、ライカマンあり、イコンタマンは言ふに及ばず下はすべて單マン（一寸變ですが實在して居ります。）に至る迄その寫眞熱は硫酸中に一滴の水を入れたるよりも更に盛んなものであります。

來年いよいよ出来る新校舎に移るや否やその廻廊で大々的に寫眞會、應化寫眞會の開催の聲も聞かれます。毎月曜の鎌田先生の光化學により所謂道樂でなく寫眞化學としての寫眞に對する興味が増々盛になりつゝあります。大部脱線の形ですが其の他スケート又十一月末よりシーズンに入るスキー、之に伴ふ『山歩き』の方もクラスの所々にその専門語（？）が聞かれる程であります。

その他趣味の方は高尚、優雅な方面があり中には浪花節の一曲きりもうなるものも居りますが、古風な方では謠曲をやつて居られる方もあります。ピアノ、マンドリニスト、ギタリスト、デンバリスト、之は違ひバイオリニスト、等々であります。指導者宜しきを得ば一大交響樂團も飛び出さまじき形勢であります。歌舞伎、繪畫方面に至つては相當の大智識のものも居ります。燈下大いに親しむの候、専ら頭をねり、腕をみがき、その鼻意氣當るべからざるものがあります。

申し後れましたが、先月の理工科大會には一年の方よりも若干名二年三年の方にお手傳ひ致して（中にはかへつて足手纏ひになつたものもあります）非常時の時節柄、煙幕を實驗公開し、最後には催涙彈により大いに都下の子女の紅涙を絞つたのであります。

甚だ脱線ばかり致し、クラスの中の事は充分に書けませんでした。兎に角まあこんな風で、この百萬位であります。

一年生の状態は、一年全體がハリキッテすべてに——學問に、スポーツに、趣味方面にあたつてゐる事であります。妄言多謝。（三橋記）

前號で中付氏春日井氏によつて一年坊主の状態は既に紹介済みであるし、又一つ棟の下で實驗をやつて來たのであるから、御互の様子は此處に報告するまでもないと思ふ。

さて、何か書いて呉れと命令され引受けた形になつたのであるから、何かは書かないといけないのであるが一向かいてなさうなものないが——もつとも與多話なら豊富にあるのだが——貧弱の感想であるが此處に記して責任を果さうと思う。

應化にサッカー部位あつてもよいとは前々から考へてゐるものだが、こんな事を此處でとやかく言ふより十人なり十五人なり集まつて話をすればすぐ部の一つや二つ位出来るのであるから、部の話は止めてにして製圖について一寸意見を述べさせて貰う。

「昨夜製圖で徹夜した」なんて話をすると、誰でも「うへ應化に製圖があるのか！」と喫驚して見せる。事程左様に應化に製圖のある事は不思議に思はれるらしい。中には「いや！それは結構なものがあるね」と感じて呉れる人もあるかも知れないが残念乍ら僕は斯る奇特な人に遇つた事がない。それで元來製圖の好きな僕も應化に製圖のある事を不審に思う様になり、今では應化の七不思議の隨一に上げて「もいゝやうな気がする」。

こんな感じを抱いてゐるのは僕等の考が至らない故であるかも知れない。併し他所の學校には全然ないといふ話であるから——他所の學校の有無に關係はないが——僕等の不審がるのもあながち誤まつてゐるのだとも言へないと思ふ。此處まで書けば賢明な諸兄には僕の言はんとしてゐる所は既にお分りなつた事と思うが、要するに製圖は選擇課目の一つにして他に獨逸語なり、何なりの課目を置いて、製圖をやるべしと強制せずに、選擇させて貰ひたと思うのである。

獨逸語といへば學院で三組合併で、いとも嚴格な授業を受けたのであるから、何でもすらすら讀めねばならない筈であるのに、僕の見所では圖書室には立流な獨逸語の本も山積されてゐるが、英書に較べて何んと手垢の少ない事よ！此を見ても如何に皆

が獨逸語を敬遠されてゐるか現はれる。しかも先輩から獨逸語の必要を聞き、就職試験にもあるぞ脅かされてゐるが、前にも書いた様に製圖の必要を耳にした事がない。獨逸語を學校でやつてもらへば早速圖書室の獨逸語の本を飾りにしなくても済むだらうし、先輩から脅かされる事もなくなるだらうと思ふ。其の上學校の良非を見るのに入學率就職率を持つてする世の中である事を思うと、どうしても獨逸語は置いて貰いたいと僕は考へてゐる。

貴重な紙面を懶け者の戯言に費した事を御詫びします。(U生)

工業經營科、それは衆人環視の中に生れ出た一個の生命である。その生ある工業經營科は、性質上から理工各科に分屬せられ、謂はゞ託兒所に預けられた幼児の如く、我等は各科の諸兄と共に育てられて來た。外にあつては専門の知識を習得し内に、集つては經營の基礎を學ぶ我々は、人一倍の努力と注意力を必要としてゐる。集つては忽にして散じ、散じては集る我々工經科は、かの恩賜館の一館を根據として、次第に活躍發展への途上を進んでゐるのであるが、茲に一つの試練として我等の面前に來つたものは、理工學部展であつた。創設日尚淺く而も第一回生として先輩なく、又學生數少き我々が多數の先輩と學生を擁し且經驗ある各科に伍せんとするには餘りにも幼き工經科であつた。少くとも今日迄の工經科の一舉一動は、入學早々の子を親達が非常なる注意を以て見てゐる様にあらゆる人々から注目されてゐたに違ひない。而して工經本來の生命を世人に認識せしむべく努力するには餘りにも幼く且時期に非ざることを感じたのでありますが、要するに我々は努力した。展覽會の陳列について一言すれば、第一室は性能検査で第二室が統計を取計つたものである。統計は從來のグラフ式を廢して肉眼に訴へ夫々の統計は口述の説明をへて更に工經本來の生命に及んだのである。我々の成績に關する批判は論ずべくもないが、要するに我々は工業經營に關する一つの暗示を興へ得たことを信ずるものである。

さて、飄つて我々は工業經營科、否、工業經營そのものの未來について考へて見よう。明治時代から昭和の時代に至るまで、多少の變動はあつたが、我國工業の進歩は實に著しいもので、工場の数とか生産額とか、生産品の質から云つて長足の進歩を遂げたのであるが、今後將來は徒に工業の進歩を喜ぶの

みではいけなくなるのであらう。即ち工業の統制とか、工場管理法の改善とか、通商貿易とか他の産業とかの關係とか、少くとも工業に關係ありと認めらるゝすべての方面に注目して、今迄以上の好成績を得る可く努めねばならなくなるであらう。工業に於ける人的要素と物的要素の緊密なる連絡、技術と經營との名コンビによつてこそ初めて將來工業の發展を約束されるものではなからうか、斯く考へ及ぶ時我々工業經營科の使命は彌が上にも重きものとなり且又我々の前途は、『春の海の如く洋々として多望』なるを感じる。

幸に、我等六名は工經科生として又應用化學科の一員として諸兄と行動を共にし得ることは、我々として非常に幸福と信ずる。やがては少年となり青年となり、工業日本を背負ふて立つべき任務のある諸兄併に我々、共に學ぶは此の早稲田學園。

諸先生、諸先輩、併に在學諸兄の御指導を願つて止まぬ次第であります。(終 昭 10.11.5)

#### (5) 住所及勤務先變更

|       |                                      |
|-------|--------------------------------------|
| 近藤 次郎 | 海軍火藥廠艦政本部第一部                         |
| 荒木 宗策 | 大阪府下吹田町榎原 3244                       |
| 木村清一郎 | 東京バームチツト商會<br>東京市杉並區阿佐ヶ谷 2ノ618       |
| 木村 規郎 | 大澤商會小倉出張所<br>小倉市室町四丁目同所内             |
| 井上 秀治 | 横濱市中區西久保町 122                        |
| 鳥井 淳次 | 日本製袋工業株式會社<br>東京市瀧野川區瀧野川町 2099 同社内   |
| 四屋 文彦 | 帝國人造絹絲株式會社第二帝人三原工場<br>廣島縣三原町堀川町 1729 |
| 荒木 一郎 | 福岡縣門司市大里南原町 7                        |
| 竹内 光雄 | 大日本印刷株式會社(社名變更)                      |
| 増淵 吉長 | 東京市澁谷町豐分町 7                          |
| 富樫 稔  | 清淨化學工業株式會社<br>淀橋區西大久保 3ノ136          |
| 熊谷 徳  | 横濱市中區西戸部町字境ノ谷 1709                   |
| 神津 東吾 | 昭和人絹株式會社錦工場<br>福島縣石城郡錦村同工場内          |
| 大坪 義雄 | 大日本印刷株式會社(社名變更)                      |
| 川村 良夫 | 王子區稻付 3ノ1 觀月莊内                       |
| 北山 博  | 川崎市南幸町 3ノ1310                        |
| 名倉 五郎 | 仙臺東北帝國大學工學部化學工學科西澤教室内                |

宇野澤順平 山川製藥株式會社王子工場  
 小山 克二 日本電氣工業株式會社横濱工場  
 土井 内清 王子區志茂町 2-1317  
 村田 卓 大日本印刷株式會社(社名變更)  
 藤木 茂 日本人造羊毛株式會社  
 松田 謙治 東京府下千歳村祖師ヶ谷 1223  
 福島 巖二 瀧野川區西ヶ原町 987 番場方  
 荻布 佐一 大日本鹽業株式會社旅順出張所  
 關東州大房身關東鹽業試驗所内  
 吉田 忠 富士纖維工業株式會社富士工場  
 石橋 春雄 小島印刷株式會社  
 静岡縣富士郡富士町上横割成安寺内  
 西本 勇吉 尼崎市神田北通<sup>9</sup>の241松壽園アパート

### (6) 夏期工場見學旅行記抜萃

(昭和 10 年度、關西九州班)

我等の年中行事、夏期休暇工場見學旅行は、今年  
 は例年と趣を異にし、全員<sup>2</sup>隊に分れ、1隊は北海道  
 地方に、1 隊は關西、九州地方に行く事になつて、  
 吾々一同は、秋山助教の引率の下に、7 月 13 日  
 から、同 2 日にわたつて、關西、九州地方を遍歷  
 し、工場、名勝、古蹟等を親しく見聞し、到る處で  
 校友先輩諸氏の熱烈なる御歓迎、御聲援を忝うし恙  
 無く全豫定を成功裡に完了したのである。以下その  
 略歴を記して報告に代へる。

7 月 13 日(土)—第 1 日—晴

午後 11 時、東京驛集合、集へる面々は、秋山先  
 生、出雲、本間、谷岡、桑原、山田、山口、松島、  
 平山、山本の諸君、一同元氣旺盛

午後 11 時 20 分、東京發京都へ、總勢 10 人、  
 賑かにスターは切らる、初夜の車中、暫時は談笑盡  
 きず、夜更後窮屈な假寢を結ぶ。

7 月 14 日(日)—第 2 日—快晴

午前 11 時 2 分、京都驛着、呂、藤崎兩君加はる  
 2 臺の自働車に分乗し、清水寺を詣で、圓山公園に  
 少憩後、三條大通りの朝鮮屋にて中食。自働車にて  
 嵐山に行き、ボート 3 艘に乗りて、カメラの應酬あ  
 り三條大橋際の布袋館に歸り一先づ落着く、内海君  
 馳せ參ず。

夕食後、京の夜景を求めて京極祇園に散策。

京都は、大水害の傷 未だに癒えず、各地に復興  
 の工事が勇ましく行はれて居た。

7 月 15 日(月)—第 3 日—曇時々晴

午前 8 時 1 分京都驛發、同 8 時 55 分大阪着、

磯野君加はる、直ちに市電<sup>6</sup>造幣局に行き見學す、  
 午前 10 時頃、造幣局を辭去、大阪城に上り此處に  
 て中食

午後 1 時頃、電車にて、濱寺經由天津橋に行き、  
 淺野セメント工場見學、一同漸く疲勞の色濃し、歸  
 途、藤崎君の御招待を受く、快き風呂に疲れを醫し  
 山海珍味の御馳走に飢渴を忘る、一同感謝多々、藤  
 崎家を辭去して、道頓堀、心齋橋に漫步、地下鐵に  
 て大阪驛へ、

午後 9 時 17 分、下關行寢臺車にて大阪驛を立つ

7 月 16 日(火)—第 4 日—雨後晴

午前 7 時食堂にて朝食、窓外には強雨降り注ぐ、

午前 7 時 48 分、下松着、稻生先輩の出迎あり、  
 3 臺の自働車に分乗して日石へ、雨を衝いて見學す  
 汽車の時間が切迫したので急いで辭去し、午前 11  
 時 17 分下松發、午後 2 時 35 分下關驛着 途中德  
 山にて田村先輩の送迎を受く、車中中食

下關驛より、彦島林兼商店の出迎<sup>1</sup>に案内されて  
 直ちにランチで彦島へ、風變りの工場、面白い工場  
 吾々の校友中部氏の工場である、最も印象深く見學  
 したのは冷凍室である。

再びランチにて、下關に渡り、東魚市場龜山宮を  
 經て、彼の源平兩氏最後の合戰場壇の浦に至る、目  
 前に九州の山河を控へ流れの急な海峽の荒波は力強  
 く岸に押し寄せる、御裳川の古蹟に暫し佇み急いで  
 宿に歸る。

夜、山陽ホテルの中部氏の歓迎會に臨む、新舊襟  
 を開き、母校を語り合ひつゝ歡を盡し、夜更後散會

7 月 17 日(水)—第 5 日—快晴

午前 9 時 50 分下關發、愈々九州へ第一歩を印す  
 此處で、廣瀬君參加電車で大里に行き、サクラビ  
 ル工場見學、汽車にて小倉へ、都家旅館に落ち着き  
 午後は自由行動。

夜、應化先輩の歓迎會あり、來會の諸兄は、木村  
 荒木、牧、御厨、長濱、茂呂の諸氏、懇懃なる歡談  
 盡るを知らず、美妓のサービスに杯を重ね、泥酔の  
 連中續出の有様、一同 100%に旅愁を慰めらる、

7 月 18 日(木)—第 6 日—晴

一同疲れの爲稍々遅く、午前 10 時宿を出で、電  
 車にて八幡製鐵所に至る、化學工業否現代の凡ての  
 工業の粹を集めた本工場は、先づその規模の雄大な  
 るに一驚する、職工食堂にて中食し、午過ぎより見  
 學を始む、洗炭工場、燐炭工場、副產物工場、熔鑄  
 爐、高爐セメント、煉瓦工場を見學す、後半は全

く強行軍だった。見學を終へ、街に出てお祭の行列を追ひ越しつゝ、電車、バスにて戸畑へ、此處で廣瀬君別る、渡しの蒸汽船にて若松へ至り、辻村先輩の御紹介にて久家旅館に投ず、當地隨一の宿との事設備中々良し。

夜7時より校友歡迎會に出席、老若一堂に會し、語るは同じく母校の事、辻村氏の歡迎の辭、秋山先生の答辭、自己紹介等あり、夜更後校歌を合唱して散會。

7月19日(金)―第7日―晴

午前10時バスにて二島に至り、日本板硝子工場見學、更にバスにて折尾に行き、午後0時33分同驛發博多へ、車中中食、1時42分博多着、吉村君を呼び出して案内を乞ひ、箱崎八幡に遊ぶ、博多は奇麗な町だ、午後3時36分博多發、二日市へ、二日市よりバスにて太宰府に至る、古色蒼然たる境内の景色は、故人を偲ぶに十分だった。

自働車にて、武蔵温泉に至り、大丸館に落ち着く、旅程最初の温泉場夜となり街の柳に燈影映る頃三々五々漫に歩き暑さを凌いだ。

7月20日(土)―第8日―雨、曇、晴

午前10時、雨を衝いで、バスにて二日市驛に至り久留米に向ふ、11時頃久留米に着き、直ちに日本タビ及ブリッチストンタイア工場を見學す、頗る歡待さる、豫想以上の大規模、先日、筑後川の汎濫により莫大な水害を蒙りたりとの事、晝食を御馳走になり、校友取締役林氏の苦心談を拜聴。

午前3時15分久留米發武雄へ、東京屋に落ち着く、温泉街の夜景に旅愁を紛らしぬ。

7月21日(日)―第9日―晴、驟雨、甚だ暑し

午前10時武雄發、午前1時30分長崎發、吉村君馳せ參ず、直ちにランチにて水之浦に行き長崎造船所に至り、機械科の先輩高場氏の御案内で工場内を隈なく見學、歸途、船員クラブにてビールの饗應を受く、將に降り出さんとする空模様を氣にしつゝ急いで宿屋大寶館に歸る、夕食後再び晴れるを幸に街を散歩、思案橋を渡り電車にて歸る古い港町！長崎の街！

7月22日( )―第10日―快晴、酷暑

午前7時、長崎發諫早へ、8時諫早發雲仙バスにて小濱に至り、絶勝の地雲仙岳に登る、途中風光明媚、歌ふか如き少女車掌の説明あり、岳上の眺望亦筆舌に盡し難く、温泉の流れや噴氣孔の奇觀あり外人避暑客の翬集せるが目につく、中食後バスにて

下山、島原へ、汽船にて渡る、紺碧の海と空、風亦涼し。

三角には、小野田先輩の出迎あり、共に、八代に行き、暮色蒼然たる中に王子製紙八代工場を大急ぎで見學、更に汽車にて山奥に入る事約1時間、球磨川畔坂本に至る、巴館に投ず。

夜、小野田先輩及王子製紙坂本工場の御好意により名物鮎の御馳走に舌鼓を打つ、1ヶ月も前から鮎を蒐集されたとは、全く感謝の述べようがない。

7月23日(火)―第11日―快晴、午後大雷雨に遭遇

午前8時頃、小野田、近藤兩氏の御案内で王子製紙坂本工場見學、見學後直に「球磨川下り」を行ふ、小野田先輩も、御令嬢御同伴にて參加さる、日本急流の1たるクマ川の急湍上に、2艘の輕船を浮べて飛ぶか如く流れ下る心地よさは、實に素晴らしい下る事約2時間、正午頃八代に到着

午後0時48分八代着、1時44分熊本着、3臺の自働車に分乘し、熊本城を通つて、水前寺公園に遊ぶ、公園にて猛烈な大雷雨に遇ひ、心膽を寒からしめた事は印象深い。

午後4時21分水前寺驛發 5時13分立野驛着温泉バスにて枋木温泉へ、小谷旅館に落ち着く、温泉池、温泉プールあり、誠に勝景たり。

7月24日(水)―第12日―快晴、甚だ暑し

午前9時頃晝食を携へて宿を出で、午前10時14分立野を立つ、10時50分坊中驛着、直ちに阿蘇登山遊覽バスに乗り山上へ、登るにつれて、擴がる眺望は實に爽快だ、城廓の如き大外輪山、パノラマの如き遠望、悠然たる放牧等々、山上より火口まで更に徒歩にて上る、世界一の大火口！ 暫し默然とその大自然に接す、火口にて中食、記念撮影後歸路につく。

坊中驛にて、小野田氏一行と磯野君(同君は鹿兒島に向ふ)に別れて大分に向ふ、車中灼熱耐へ難く全くの難行軍だった。

別府についたのは午後七時半、流川のひさご旅館に落ち着く。

7月25日(木)―第13日―晴、暑し

午前9時頃宿を出で電車にて大分に至り、自働車にて佐賀關に向ふ、途中自働車の故障等ありて豫定よりやゝ遅れて日本鍊業株式會社のドル箱佐賀關製鍊所の門を叩く、晝食を御馳走になつて見學す、東洋一の高い煙突や金塊等は印象深いものだった。一



萬圓の金塊を手にとって見ると嬉しくなった海路より別府に歸る。

これで豫定は終つたのだ、一同ホツとした氣持

夜、目出度解散式を行ひ、幾多の收穫と共に見學旅行の終幕は切つて落さる、時に午後 11 時!

各自散つて、明日からのプランに熱中、或は地獄廻り。或は耶馬溪山陰廻り、或は瀬戸内海へ等思ひ思ひのプランを立てる、かくして最後の夜は更け行く

最後に、多忙中御懇切なる御案内の勞を惜まざりし諸工場職員諸氏歓迎饗應を忝うした先輩諸氏に満腔の感謝を表し、終始御愛情に充ちた御指導を賜つた秋山先生に無限の謝意と祝福を捧げる。(ろ)

#### (7) 平塚海軍火藥廠見學並びに修善寺遊記

午前八時二十分東京發下り列車を利用して出發、途中品川横濱にて乗車した諸君を加へて一行二十名級見學としては左して多人數ではないが、この中に先生方が四人も加はられることは一寸今までになかつた事であらう。車中例の如く快談怪談相次いで起り談笑の内に平塚驛に到着、時に午前九時三十二分

驛にて先着の山本先生に會して二十一名となり約三丁距りたる火藥廠に向ふ、街路を抜けて松並木に到る、海岸近くなれば松は一方のみに傾いて居る、「なぜ海岸では松の木は傾くのだ」、なんとといふ尋常一年生式の質問が出て二三の例の辛辣な應酬あつて談笑裡に正門に達す、こゝにては門番から総て軍隊式、さすがこゝは海軍の火藥廠であるといふ事を一度に強く印象付けてくれる。寫眞機を總てこゝへ預けさせられて、「これはうつかりした事は出来ない」と誰の顔にも緊張の色がサツと現はれる、やがて應接間に通され漸時休憩、應接間は至つて粗末なもので、門番一度肝を抜かれた連中もホツとため息をついた。フロイドの精神分析にまつまでもなく皆早稻田の應用化學實驗室を想像して吾が家へ歸つた氣分を出して安心したのに違ひない。さて四人の案内人に導かれて見學に出掛ける、先づ製造作業工程を製品及び半製品にして示した陳列館に案内されてこゝでは工場、製品原料半製品作業の智識を極めて秩序正しく得られる様にしてある。小林科長を始めとしてしきりに質問を放たれて熱心に見學され、學生諸君も話しに聞いた猛烈なる各種火藥を目のあたり見て更に智識を深めた、次いで各研究室を見ることゝなつた。

こゝでは研究室の専任の案内人に導かれて廻るこ

とゝなつた。研究室の數は數十、一々内へ入ることは許されず硝子越しに見なければならなかつたのは残念であつた。さすが海軍の火藥を殆んど一手に引受けるだけあつてその研究室の豊富さ、テストングアパラスタスの完備さは吾々を羨望せしむるに充分であつた。

とある廊下で小林先生がしきりに感心して居られるので、どうかせられたのかと近づいて見ると廊下の方の傘掛け様なものに砂バケツが二三吊してあつていざ失火といふ場合には極めて手ぎはよく砂を運ぶことの出来る様になつてゐる。これを見てしきりに感に堪えて居られる、吾々も成る程と感心した。多分新實驗室落成の暁はこれを範つて行はれるでるらうと思ふ。

爆發力を試験する強引な試験機を見て研究室の見學は終り製造方面の工場へ向ふ。

こゝでは吾々は他の工場で滅多に見せない硝酸製造を見學して得る所があつた。この外硝化綿製造の各プロセスは眞に興味深く見ることが出来た、散在する綿藥製造工程を見學し終つて時間は今や一時にならんとして居る、早朝よりの活動 爲め諸氏の空腹はすこぶる激しさを加へ途中で食事をとる様交渉を進めた。吾々 次に見學せんとする所は火藥の造粒等の成形工作である廣大なる地域に散在する工場を點々廻らねばならなかつた。

職工達の食堂で休むこと十分こゝで吾々は意外にもこれ以上の工程は見學を許されないとの知らせを得た。誠に残念ではあつたが一方には全員思はずホツとしたに違ひない。全く背に腹は變へられない場合であつた。聞けばこれより見學すれば尙二時間は充分かゝるとの事さてもその廣さは驚嘆の外なかつた。

かくして早々に應接間に引上げ茶の接待を受けて退出した時に一時半、例の松並木にて記念寫眞をとる解散となる。

腹のへつた見學も正門を出て松並木で解散となつた。何はともあれ食事にありつかずばと街をキョロついて、とある食堂へ飛び込んでやつと人間らしくなつた。この時特筆しなければならないのは宇野先生である解散となるや傍の岡へかけ上つて御持參の辨當を開かれる皆美やましがる事、羨ましがる事、もつとも食氣と賢夫人への羨望とのごつちやでは無理はない、無理はない。

さて修善寺行は豫定より少く、十四名となつたが皆元氣旺盛二時十六分の下りを待つ。汽車は追々進んで小田原へ来たこゝで内海は知人訪問の爲め途中下車をなし一行は十二名となる、小田原を過ぎると同車中の中年紳士四人大分よい機嫌で騒いで居たがメートルは益々上つてしきりに怪げな歌をうなり始めた。「あなたと呼べば、あなたと答へる……」いやどうも見ともない事御話しにならない、天下の罪惡、世界の醜惡こゝより發すると思はれるばかりであり吾々は相戒めあふのであつた。

湯河原、熱海いつか過ぎ名高き丹那トンネルの長きにはちよと驚ろいて浪花節の文句ぢやないが、やつて來ました、三島の宿。

こゝで一行は二手に分れ一は自動車にて一路修善寺へと急ぎ八名ばかりは駿豆電車に身を任せ途中大した事もなく修善寺につきこれよりバスにて温泉へと急いだ、宿は野田屋可成の家である、女中諸君の出迎を受けてトントンと二階へ上れば先發の五名はすでに到着湯につかつて居るとの事まあ吾々も落着けとばかりドテラに着かへる。

ところがこゝに笑止なことにはどうしても落付かない二人の男があつた。よく見るとドテラが合はないそうだ、見れば或る程膝小僧が出ないのが幸ひ山田 案山子によくある圖だ、筆者等あまり大きくなるのを欲しなかつた連中は先づ幸きよしと溜飯を下げた。御湯も仲々上等、とかくする内三々五々連れ立ちて夕の偵察に出掛けるものあり止まりて女軍相手にピンポン、撞球に興ずるものあり温泉気分はいよいよ濃厚となつて來た。

やがて夕食となるや全員一室に會して先づ川崎委員の名演舌次いで續々運ばれる丁子に全員元氣付きあ 手この手と日頃の蘊蓄を傾けてしきりに女軍をよろこばすものあり忽ちにして滿堂歡喜のルツボと化し去つた。この間本間、内海後ればせに來り會して意氣いよいよ上り時間の過ぎるのも氣付かなかつた。二時間餘にして打切にし夜の温泉町散策にと出掛ける

一方ピンポンは俄然人を呼んで學生軍女中軍の對抗戰が再び演ぜられ喧々囂々の聲は天地を揺すばかり遂に凱歌は學生軍に擧り女軍涙を吞んで敗退となる。兎角するや夜も更けて散歩に出掛た連中も殆んど歸り探檢談に再び興が湧きていつ果てるやも知れない有様であつた。

起床六時昨夜の心配が本統となつて天氣はぐれ出

して谷川の流れの音も漸やく激しさを加て來たさすが昨夜來の活動に疲かれてか口かずも少く靜に御湯に浸つて語る、昨夜に比して一入興の深いものがあつた。

朝食を終へて直ちに解散となつたが一人として去らず土産品等買整へて次のプランを立つるものあり基に興ずるもあり、午前十時伊東行の自動車隊を先發として旅館を出た。 1935.10.18 S.Y 生記

### ルツボ會追加記事

永らく應用化學科教室に出入りして石油、石炭方面の研究をされて居た阿部二郎君は今回滿洲石油株式會社に高級技師として入社される事になり十二月中旬赴任される事になりクラスメート一同大に喜んで居ります。願はくは健康に留意して東亞の天地に飛躍されんことを。同君元來寒國育ち故氣候の變化には相當のレジスタンスがあるかと思ふ。近日中に送別のクラス會をやらなくてはならない。兎に角一席設ける事にしよう。